

第 1 章 事前調査の概要

1 - 1 要請の背景、目的

1)モザンビーク共和国は1992年10月内戦終結後、選挙によって現チサノ大統領新政権が1994年12月に発足し、復興・民主化への努力が続けられている。

我が国は94年に同国と政策協議を実施し、今後の重点分野を農業、社会セクター（BHN、基礎インフラ等）、人的資源開発とすることで合意して以来、積極的に協力を行ってきた。

道路に関しては、第二世銀（IDA）を中心とした多国間の協調融資を行い、道路・沿岸輸送改善計画（ROCS：Roads and Coastal Shipping Project）を実施しており、道路公社の設立が提言されている。

2)首都マプト市（面積約130km²、人口約100万人）は未固結の砂質土でできた沖積台地上に位置している。同市では道路整備計画が作成されておらず、主要道路は市内中心から放射状に延びる幹線道路によって構成されているが、環状道路がないため中心部に交通が集中している。道路舗装は、市中心部と国道1号線は良好であるが、それ以外は舗装の剥がれている部分が目立ち、全長959kmの道路網のうち62%は未舗装道路である。橋梁も鋼材部分の塗装が剥がれて腐食している。また、大半の道路には排水設備がなく、維持管理がされていないため劣化が進み、サービスレベルが低下している。

3)さらに、2000年3月に起きた洪水災害では、道路の不十分な維持・管理が原因で市内各地で被害が出た。

4)かかる状況下、モザンビーク政府は1999年3月、首都マプト市における道路網整備マスタープランの策定及び優先プロジェクトに係るフィージビリティ・スタディ（F/S）の実施を我が国に対して要請した。

5)これを受けて、2000年7月に事前調査団を派遣し、調査内容・方針についてモザンビーク側と協議を行い、7月19日に実施細則（S/W）及びミニッツ（M/M）の署名・交換を行った。

1 - 2 事前調査団の構成

No.	Name	Job title	Occupation	Period (arr. - dep.)
1	Yasuhiro SAKO 佐古 康廣	Team Leader / Road Planning 団長 / 道路計画	Director, Computer Information Div., Kinki Regional Construction Bureau, Min. of Construction 建設省近畿地方建設局電算情報課長	9/Jul - 21/ Jul
2	Masanori TUKAMOTO 塚本 政則	Road Maintenance / Drainage Planning 道路維持 / 排水計画	Deputy Director, Maintenance Planning Div., Maintenance Department, Chugoku Bureau, Japan Highway Public Corporation 日本道路公団中国支社保全部保全企画課課長代理	9/Jul - 21/ Jul
3	Seiji OBAYASHI 大林 誠司	Study Cooperation 調査協力	Staff, Development Cooperation Div., Economic Cooperation Bureau, Min. of Foreign Affairs 外務省経済協力局開発協力課事務官	14/Jul - 21/ Jul
4	Tomohiro ONO 小野 智広	Study Planning 調査企画	Staff, JICA (1st Social Development Study Div., Social Development Study Dpt.) 国際協力事業団社会開発調査部 社会開発調査第一課職員	9/Jul - 22/ Jul , 26/Jul - 27/ Jul
5	Soemu OSHITA 大下 副武	Road Structure / Traffic Planning 道路構造物 / 交通計画	Katahira & Engineers International 株式会社 片平エンジニアリング インターナショナル	14/Jul - 31/ Jul
6	Ko KUWATA 桑田 幸	Natural Condition / Environment 自然条件 / 環境	International Development Associates Ltd. 株式会社 国際開発アソシエイツ	14/Jul - 31/ Jul
7	Magarete Mitico TAKEHARA MATSUO 松尾 ミチコ	Interpreter (Portuguese) 通訳 (ポルトガル語)	Japan International Cooperation Center 財団法人 日本国際協力センター	9/Jul - 31/ Jul

Master Plan and Feasibility Study for the Road Development in the City of Maputo in the Republic of Mozambique

Date	Day	Time	Location	Appointments
10-Jul-00	Monday	16:00	Maputo	Courtesy Call to Maputo Municipality
11-Jul-00	Tuesday	8:00 14:30 16:30	Maputo	Site Survey Maputo Municipality Courtesy Call to Embassy of Japan
12-Jul-00	Wednesday	8:30 15:00 16:00	Maputo	Maputo Municipality, Discussion on S/W Courtesy Call to Ministry of Foreign Affairs (MINEC, DAO) National Road Administration (ANE)
13-Jul-00	Thursday	8:30 11:00 15:00	Maputo	Maputo Municipality, Discussion on S/W Directorate of Water Affairs, Department of Urban Water and Sanitation (DASU) SIDA, SWECO
14-Jul-00	Friday	8:30 11:00 14:30	Maputo	Maputo Municipality Embassy of Netherlands World Bank
15-Jul-00	Saturday		Maputo	Site Survey
16-Jul-00	Sunday		Maputo	Internal Meeting
17-Jul-00	Monday	8:30 14:30	Maputo	Maputo Municipality, Discussion on S/W Joint Meeting with relevant Agencies (Maputo Municipality, ANE and DASU)
18-Jul-00	Tuesday	8:30 14:30	Maputo	Maputo Municipality, Discussion on S/W and M/M European Commission
19-Jul-00	Wednesday	10:00	Maputo	Signing of Minutes with S/W and M/M
20-Jul-00	Thursday	15:20	Maputo	Report to Embassy of Japan Departure of Official Members
Continuos Research by Consultant Member				
20-Jul-00 to 29-Jul-00	Thursday Saturday		Maputo Maputo	Continuos Research by Consultant Members
30-Jul-00	Sunday	15:20	Maputo	Departure of Consultant Members

1 - 4 面会者リスト

- マプト市庁（市議会） - Conselho Municipal de Maputo

- 1) 市長：Mr. Artur Hussene Canana
- 2) 議員（インフラストラクチャー）：Ms. Ana Margarida Lemos Sousa
- 3) 議員（沿岸・環境保護）：Mr. Zacarias Esau Cossa
- 4) 事務総長：Mr. Cremildo Chitará
- 5) 顧問（インフラストラクチャー）：Mr. Alfredo Badulo
- 6) 協力担当：Ms. Dalila Lagrosse

- 道路・橋梁局（Direcção dos Serviços Municipais de Estradas e Pontes）

- 1) 局長：Mr. Missael Macolua Cumbe
- 2) 土木技師：Mr. Sábado Caetano
- 3) 中級技術者：Mr. Hélio Castro Moande
- 4) 中級技術者：Mr. Ricardo Aníbal
- 5) 中級技術者：Mr. Rui Uber

- 水利・衛生局（Direcção dos Serviços Municipais de Águas e Saneamento）

- 1) 局長：Mr. José Ronda
- 2) 技術者：Mr. Gabriel
- 3) 技術者：Ms. Tereza

- 運輸・交通局（Direcção dos Transportes e Trânsito）

- 1) 局長：Mr. Jaime Acácio Muchanga

- 公園・庭園局（Direcção dos Serviços Municipais de Parques e Jardins）

- 1) 局長：Mr. Niranj Sacarlal

- 建設・都市化局（Direcção dos Serviços Municipais de Construção e Urbanização）

- ・ 都市化部（Departamento de Urbanização）

- 1) 部長：Ms. Maria Rosa Mabana

- 住所室 (Gabinete dos Serviços Municipais de Endereçamento)
 - 1) 室長 : Ms. Teresa António M. Chissequere
 - 2) 職員 : Ms. Marta

- 外務協力省 - Ministério de Negócios Estrangeiros e Cooperação / Ministry of Foreign Affairs and Cooperation
 - アジア・オセアニア局 - Divisão para Ásia e Oceania / Division for Asia and Oceania
 - 1) 次長 : Mr. Artur Jossefa Jamo
 - 2) 三等書記官 : Ms. Ofélia Tembe

- 道路公団 - Administração Nacional de Estradas
 - 地方道路局 - Direcção de Estradas Rgionais
 - 1) 局長 : Mr. Atanásio Mugunhe

- 国家水利局 - Direcção Nacional de Águas
 - 都市水・衛生部 (Departamento de Águas Urbanas e Saneamento)
 - 1) 衛生技師 : Mr. António M. Mirasse

 - 水資源管理部 (Departamento de Gestão de Recursos Hídricos)
 - 1) 水文課長 : Mr. Casimiro Carlos Buraimo
 - 2) 技術者 : Mr. Santos

 - (マプト市) 排水室 (Gabinete de Drenagem)
 - 1) 室長 : Mr. Arlindo Francisco

- 道路システム院 (Instituto Nacional de Viação)
 - 交通安全部 (Departamento de Segurança de Trânsito)
 - ・ 交通事故・違反 (Secção de Acidentes e Infrações)
 - 1) 課長 : Mr. Elias Chirime

- 環境対策調整省 - Ministério de Coordenação da Acção Ambiental
 - 国家環境影響評価局 (Direcção Nacional de Avaliação do Impacto Ambiental)
 - 1) 技術者 : Mr. Inácio Bucuana

- 国家気象院 - Instituto Nacional de Meteorologia
 - 情報処理部 (Departamento de Informática)
 - 1) 技術者 : Mr. Elias Vasco
 - 天気予報部 (Departamento de Previsão do Tempo)
 - 1) 技術者 : Mr. Salvador Antonio Domingos
 - 2) 技術者 : Mr. Felix Tualufo
- 国家船路・航海院 - Instituto Nacional de Hidrografia e Navegação
 - 1) 院長 : Mr. Albano Ângelo Gove
 - 2) 管理者 : Mr. David Chemane
- 国家地質局 - Direcção Nacional de Geologia
 - 情報・資料部 (Departamento de Informação)
 - 1) 部長 : Mr. António J. Simbine
- 交通警察中央局 - Departamento Central da Polícia de Trânsito
 - 1) 交通警察行動主幹 / 警察首位監督 : Mr. Samuel Johane Siteo
- 国家地理・登記局 - Direcção Nacional de Geografia e Cadastro
 - 写真測量部 (Departamento de Fotogrametria)
 - 1) 技術者 : Mr. Alberto Comboio
 - 2) 技術者 : Mr. Narciso
- エドゥアルド・モンドラネ大学 - Universidade Eduardo Mondlane
 - 工業・安全・環境研究センター (Centro de Estudos Industriais, Segurança e Ambiente)
 - 1) ディレクター : Mr. Maqueto Langa (技師)
- モザンビーク・エンジニアリング研究所 - Laboratório de Engenharia de Moçambique
 - 1) 運営委員会 会長 : Prof. Dr. Daniel Afonso Fumo
- 世界銀行 - O Banco Mundial / The World Bank
 - 1) レジデント代表 (Resident Representative) : Mr. James H. Coates

- スウェーデン大使館

- 1) 大使：Mr. Erik Aberg

- 2) 一等書記官：Ms. Maude Svensson

- オランダ大使館

- 1) 水利・衛生 P.O.：Mr. Jan A. van Hoorn

1 - 5 協議の概要

1. 調査内容について

マプト市側から、調査対象に市全体の排水計画をも含めてほしい旨強く希望されたが、「道路開発調査」の趣旨から逸脱すること及び調査対象があまりにも広範囲になりすぎることを当方より説明し、排水に関しては側溝等の道路排水に限ることとしてマプト市側の同意を得た。ただし、マプト市側から提供される市の排水計画の情報は、本調査を実施するうえで考慮するものとし、その旨 M / M に記載した。

また、ニエレレ通りについては既にスウェーデン系コンサルタントの S W E C O INTERNATIONAL がフィージビリティ・スタディを実施しており、重複を避けるために本調査のフィージビリティ・スタディの対象外とする旨マプト市側に説明し、合意を得た。

2. 調査対象地域

当方の対処方針は、対象地域をマプト市全域としてはいたものの、当初マプト市内とは認識していなかった市街地から数キロ離れた海上にあるイナカ (Inhaca) 島、及び市街地からマプト湾を挟んで対岸にあるカテンベ (Catembe) 地区が市域に含まれることが判明した。Catembe 地区については、先方から、今後北側の市街地とともに発展すると見込まれているとの説明があり、また現地踏査の結果北側市街地との物流・人流が認められたので調査対象とすることで双方合意した。Inhaca 島については環境保護地域であり、かつ人口も少ない未開発地域であるとの理由から調査対象外とすることで双方合意した。

3. パイロット・プロジェクトについて

パイロット・プロジェクトについては、協議及び現地調査の結果実施する意義があると調査団内で判断し、S / W 及び M / M に記載することをマプト市側に説明し、同意を得た。記載内容は、S / W においては「パイロットプロジェクトを実施する」という表記のみにとどめ、M / M において、より具体的に「道路舗装、道路側溝、交通管理等」とした。

4．調査実施体制について

先方からは、同マプト市長が議長となり、関係機関の部課長クラスの代表からなる委員会を本格調査開始時に設置する旨、確認した。なお、マプト市に技術的支援をする立場にある国の道路公団及び水利局については、既に委員会のメンバーに確定しているとの先方からの説明があり、その旨 M / M に記載した。

5．undertaking 事項について

調査に必要な資料についてはカウンターパートであるマプト市の責任と負担で提供するべく協議をしたところ、マプト市庁が（資料の大半を有する）国の機関と調整を図ることにより無料で提供可能として合意した。（通常のマプト市周辺の 5,000 分の 1、2 万 5,000 分の 1 等の地図すらマプト市庁にはなく、国土地理院から購入する場合 1 枚約 3,000 円、デジタルデータでは地図 1 枚分約 6 万円と日本では常識外の高額となる状況である。）

6．S / W、M / M 及び報告書のポルトガル語版作成について

マプト市長をはじめ、マプト市側には英語を十分に解する者が少なく、先方より S / W、M / M のポルトガル版作成の要請があった。これに対して当方から、翻訳の関係上問題が生じた場合は英語版が優先される旨先方に確認し、合意を得た。これを踏まえ、今回は英語版及びポルトガル版の両方の S / W、M / M の署名となった。

また、同様に報告書についてもポルトガル版作成の要請が先方よりなされた。当方はこれを JICA 本部に持ち帰り、検討する旨回答した。

7．団長所感

本調査は 1999 年 5 月にモザンビーク外務協力省から提出された要請に基づき事前調査団が派遣されたものである。

この間、2000 年 2 月に当国で大洪水が発生し、首都マプト市においても集中豪雨の被害が出ている。これに関連して同年 5 月にモザンビーク支援のためのドナー調整会議がローマにて行われ、各国の緊急支援が当国に対して行われてきた。マプト市の道路については、スウェーデンによるニエレレ通りのフィージビリティ・スタディや世銀による市街地道路舗装の修復等がそれにあたる。かかる状況下、我が国では当国への協力を洪水被害に対する緊急支援から本来の中・長期的な開発協力に則った復興支援に移行させていくべき時期にきているとの判断から、本調査の実施となった。

全体の協議を通じてマプト市側の本調査に対する期待の大きさが伺われたことを初めに伝えておく。

現地踏査の結果、市街地の道路では、幹線道路を除きほとんどの街区道路で路面陥没などの劣化が見受けられた。また、市内の各所で道路排水設備の機能不保持による路面滞水、更には通行不能箇所も見られ、道路交通サービスレベルが低下している。また、市街地周辺の幹線道路以外は未舗装で集中豪雨による路面劣化が著しく通行に支障をきたしている。

周辺部からの急激な人口流入による無秩序な土地利用もその一因となっていることが伺えた。また、中心部の交通状況を見ると急激な車両の増加の結果、路上駐車や歩行者の混在による混雑や区画線・信号機等の交通管理施設の不備による交通流の乱れがある。さらに、隣接するマトラ市との交通量が多いと思われ、東西軸の強化が求められている。最大の問題は、マプト市で道路計画が策定されていないことから、その維持・管理を含めた道路整備が計画的に行われていないことであり、マプト市の将来像を見据え、増加する車両に対応した道路整備の促進が望まれる。

第2章 モザンビークの概要

2 - 1 一般概況

モザンビーク共和国は、アフリカ大陸南東部に位置し、面積は約80万km²(日本の約2.1倍)、人口約1,700万人である。気候は北部では熱帯で雨が多く、南部は亜熱帯で雨は比較的少ない。中・北部は数年に一度激しいサイクロンに見舞われ、なかでも84年、94年、96年、97年及び今年2月には中部、北部に多大な被害をもたらした。宗教は国民の半数がキリスト教徒で、約18%がイスラム教徒となっている。主要言語はポルトガル語である。

民族の構成は、99%が主に8つの現地部族からなり、他はアフリカーンズ0.2%、ヨーロッパ人0.06%、インド系0.08%となっている。

全国は10の州からなり、州はさらに市または県によって構成される。国の南端にある首都マプト市を有するマプト州は、面積では国土の3%程度であるが、全人口の1割強、工業活動の約5割が集中している。概して人口は沿岸部に集中しており、全国の都市人口は約2割である。

同国の主要産業は、カシューナッツ、綿花、エビ等の農業・水産部門が中心の経済構造であるが、ボーキサイトをはじめとする鉱物資源、天然ガス及び水力等のエネルギー資源にも恵まれている。

2 - 2 政治・経済・社会状況

同国は、1544年にポルトガルの貿易商人ロレンソ・マルケスがマプトに貿易基地を開設したことによりポルトガルの支配権にあったが、モザンビーク解放戦線(FRELIMO)による民族解放運動が高まり1975年マシエル(初代大統領)の元でポルトガルから独立を果たした。独立直後は単独政党制を取り社会主義路線を歩み始めたが、左派政権に抵抗するモザンビーク民族抵抗運動(RENAMO)がゲリラ活動を展開し、77年から15年にも及ぶ内戦状態に陥った。86年に事故死したマシエル大統領の後を継いだチサノにより、89年の党大会にてマルクス主義の終結が決定され、92年によりやうく和平協定が調印され内戦が終結した。

94年民主的な大統領選挙によりチサノ政権が発足し、99年12月に内戦終結後第2回の大統領選挙・議会選挙が行われ、現職のチサノ大統領が再選され与党FRELIMOが過半数を占める結果となり、今後5年間の基盤を確実にした。与党は最近5年間で完全に社会主義政策を離脱し、自由主義経済政策を前面に南アフリカ、ポルトガル等との関係回復に基づき経済を拡大している。

1人当たりのGNPは210ドル(98年、世銀)と低い、この5年間10%程度の成長を遂げており、南アフリカ、ポルトガル、米国、仏国から活発に大規模な投資が行われ、港、鉄道等のインフラ整備が進められている。為替及び市場の自由化、民営化は既に完了のレベルに達しており、外国投資や資源管理に係る整備された法制度の執行状況が焦点となる。インフレ率は90年代前半

は50%を越える上昇であったが、99年には3%と沈静化している。人口の8割が従事している農業については、97、98年と5%程度の成長を遂げており、これにより食料の自給を達成した。

本年2月のモザンビーク中南部をおそった洪水災害は、世銀によれば被災者500万人、農耕地の10%喪失、インフラの破壊等被害総額4億9,550百万ドルに達したが、5月3日、4日にローマにおいてUNDPとの共催で復興支援のためのドナー調整会議を開催したところ、4億5,300万ドルの支援を各国より取り付けた。

2 - 3 開発計画

本年2月に開催された共和国議会により、新5か年計画(2000年～2004年)、今年度経済社会計画、今年度国家予算が採択された。

新5か年計画は、絶対的貧困の削減、地域格差の縮小を最大の命題とし、このために経済成長(7～8%)を獲得し、インフレを抑制しながら保健、教育、生活用水等の社会インフラを拡充していく路線を踏襲している。ただし、数値目標がほとんど明示されておらず、総花的な内容となっている。

経済社会計画では、新5か年計画の目標を達成するべく、経済成長を6～8%、インフレ率を8～10%に想定し、経済インフラの復旧・整備(道路・橋梁、鉄道、電気・通信網、ガス・石炭等)、社会部門の整備拡充を図るとともに民間部門の参画を促進し、外国投資の受入環境作りに重点を置くとしている。

今年度国家予算については、予算総額は約950億メティカルでそのうち51%を自主財源で、42%を海外からの援助を財源として予定している。

2 - 4 道路の状況

モザンビークの鉄道や道路などの交通基盤はマラウイ、ザンビア、ジンバブエ、ボツワナ、スワジランド等の内陸諸国及び南アフリカからインド洋方面への交通路として建設されたものである。運輸は主要な外貨獲得源である。しかし、独立後の内戦による破壊活動や施設の維持管理がされなかったため、道路・鉄道・港湾等の交通施設の状態は劣悪である。さらに、近年大洪水に襲われた同国中南部の下流地域では多くの道路・橋梁が流失している。

(1) 道路行政分類と管轄機関

モザンビークの道路行政分類は次のとおりである。

- 1 級国道 (合計延長 4,309 km)
- 2 級国道 (合計延長 8,125 km)
- 3 級国道 (合計延長 16,523 km)

国道以外の道路としては都市道路、農道、私道等がある。

運輸交通省の道路建設・維持管理実施機関である道路公団は、すべての国道と都市道路の一部を管轄している。都市道路は当該地の地方自治体が管轄している。マプト市の場合、国道以外の都市道路はマプト市道路橋梁局が管轄している。

(2) モザンビークの道路の状況

全国国道の路面タイプ別の道路延長は次のとおりである。

アスファルト舗装・表面処理	5,265 km
未舗装（路盤材の転圧のみ）	6,868 km
土 道	16,814 km
計	28,957 km

路面状態別の延長は、次のとおりである。

良	好	3 %
普	通	16 %
悪	い	37 %
非常に悪い		44 %
計		100 %

モザンビークの道路の主な問題は以下のとおりである。

- ・ 道路網が貧弱で、主要な生産地や都市が道路で結ばれていない。
- ・ 道路の維持管理能力及び資金が不足している。
- ・ 道路建設業者の能力が低い。

(3) モザンビーク国の道路整備状況

R O C S (Roads and Coastal Shipping Projects)

国道の緊急開通・修復、道路維持管理及び技術支援、組織強化等を目的に、2 フェーズにわたって (1992 年 ~ 2000 年) 実施された。多数の国及び国際機関が援助し、1998 年までの事業総額は 2 億 8,500 万ドルにのぼる。我が国の橋梁建設計画も本計画の一部をなす。

これまでに改修・修復された国道延長は約 9,000km、メンテナンスを実施した道路延長は約 2 万 200km に及ぶ。また、改修した橋梁延長は約 640m である。

この計画により、全国国道の悪い状態の道路区間の割合は、実施前の 81% から 41% に改善された。なお、同計画は継続して未完成部分が実施される予定である。

マプトコリドー計画

マプト港と南アフリカの国境まで有料高速道路をBOT方式で建設する計画である。2000年12月に完成予定である。

洪水復旧道路整備計画

今年2月の大洪水により破壊された道路橋梁を復旧するために、モザンビーク政府が策定し、ローマ会議に提出した道路整備計画である。全体で、5億9,000万ドルの事業費が計上されている。マプト市都市道路の復旧には1,500万ドルが計上されている。

2 - 5 自然条件 / 環境

モザンビーク共和国は東アフリカのインド洋に面した南北に長い国で海岸線は2,470kmに達する。北はタンザニア、マラウイ、西はザンビア、ジンバブエ、西南に南アフリカ、スワジランドに国境を接する。

国土の約5分の2が海岸沿いの低地で占められている（図2 - 5 - 1参照）。

南部から北上するにつれて西に向かって丘陵地帯から高地と変化し、アフリカ内陸部に向かうにつれて高度を増す。中北部のジンバブエ国境のビンガ山では2,436m、北部のナムリ山岳地帯では2,419mに達している。北部はアフリカ大地溝帯の南端に位置する。

ザンベジ川の流れる渓谷沿いやマラウイ国境に接するアンゴニア高地の一部以外はやせた土地が多い。

河川の多くはモザンビークに接する西の国々の高地あるいは国境の山地から発し、モザンビークの東海岸のマダガスカルとの間のモザンビーク海峡に向かっている。最大の河川はザンベジ川で、アンゴラ、ボツワナ、ザンビア、ジンバブエ領内を中小の支流河川をあつめながら流れ、カボラバサダム湖付近からモザンビーク領に入る。他にサビ川、タンザニア国境との一部を形成するルブマ川等がある。

マラウイ湖はマラウイとの国境にあり、マラウイの南端から流出するシレ川がザンベジ川に合流する。

気候は熱帯サバンナ気候で、乾季は4～10月で、7月の平均気温は北部で約21℃、南部で約18℃で、1月の平均気温は東部の沿岸地方では約27℃、西部の高地ではそれより低い。年降水量は北部で1,500mm、南部で750mmであるが、地域や年によって差がある。

国土の約20%が森林地帯で、北部の渓谷には熱帯雨林が密生するが、乾燥地帯や高地では森林や草原が広がる。

天然資源は石炭、鉄、塩、タンタル等、貴重な鉱物資源の大量埋蔵が確認されている。ダイヤモンド、アスベスト、ボーキサイト、量は少ないが銅、金、マンガン、チタン、天然ガスも埋蔵

が確認されている。

2 - 6 援助動向

従来から食料援助や食糧増産援助の無償資金協力及び研修員受入等の技術協力を中心に援助を実施してきたが、1994年に今後の我が国の援助重点分野として農業社会セクター（BHN、基礎インフラ）、人的資源開発とすることでモザンビーク政府と合意した。今後は基本的に同分野を重点としつつも、今般の洪水災害を踏まえ、より緊急・人道的支援及び復興支援に力点を置いた協力を検討する。

具体的には、今年度中を目途とした短期的対応として、緊急性の高い国際収支支援や基礎生活分野（保健医療、教育）、食糧確保等の無償資金協力、及び本件の道路開発調査によるパイロットプロジェクトの実施である。

また、来年度以降を目途とした中・長期的対応として、教育、農業、水、インフラ整備等における無償資金協力、災害対処能力の向上や防災体制の整備及び経済・社会インフラの再建に資する研修員受入や専門家派遣、開発調査等各種技術協力の実施を検討する。特に、5月に無償予備調査を派遣し、可能な限り本年度中に2件、来年度中に2件実施することを検討しており、このうち本件の道路開発調査の結果を受け「マプト市道路排水溝改修計画」の実施を予定している。

